

# 森の恵みを 子どもたちに届ける

木をあらわした設計とするために  
燃え代設計による準耐火建築物として  
内装制限の緩和を適用しています

丸太を製材すると  
表に見せたくないような節だらけの材がどうしても出てきます。  
そういう材でも壁の中に隠して使えば良いのです。  
森の恵みを無駄なく使えるように  
見せる材料と隠す材料を意識した建築のデザインとしています。

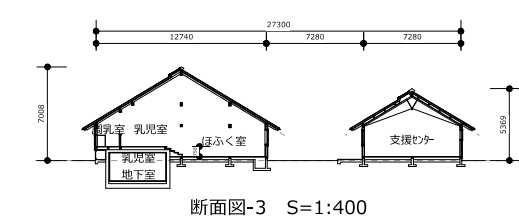
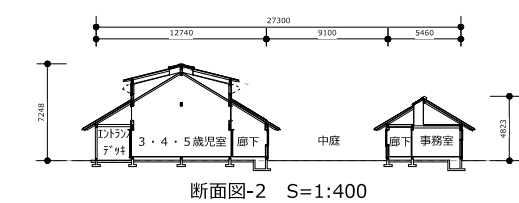
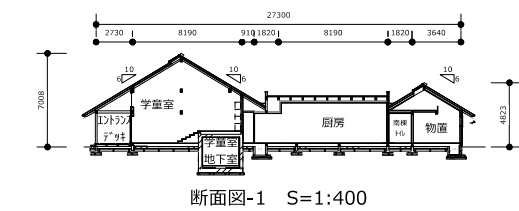
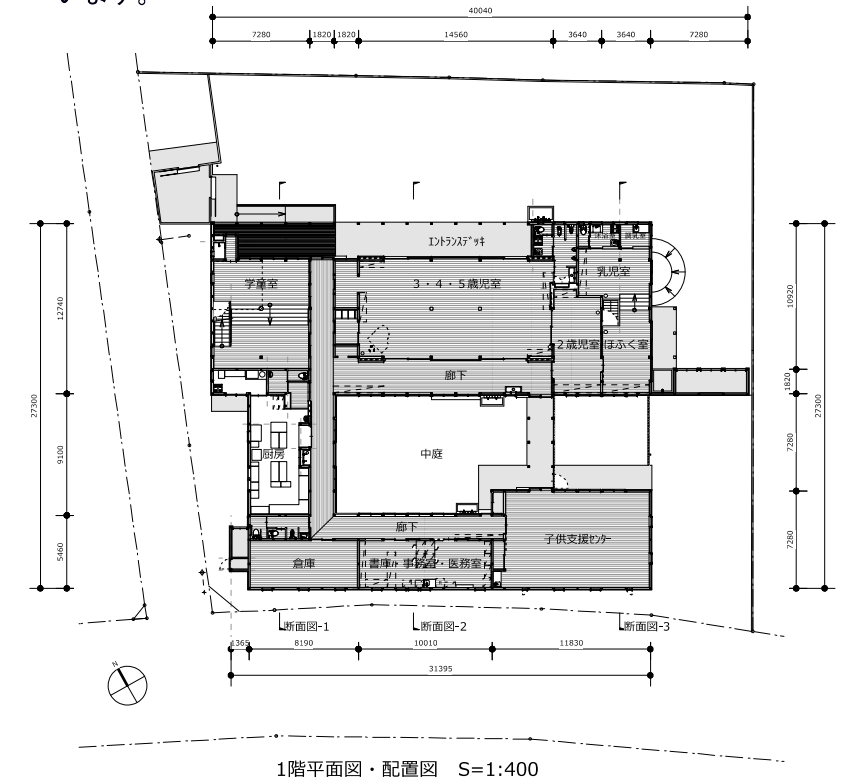
## わらしべの里共同保育所

旧園舎には塀がありませんでした。何かあったらどうしよう、大人はそう考えて高い塀を立てます。そこにあるのは大人の理屈です。「子どもたちは冒険に出て行っても、どこかで心細くなったり疲れちゃって戻ってくるんですよ。」と園の理事長の長谷川理さん。  
子どもたちはそれぞれの個性を抱えて生きていて、わらしべの里では個性をそのまま大切にします。  
一方、木は個性的で一本として同じものがなく、無垢材で園舎を作ることにはわらしべの保育と驚くほど私の中で重なり合い、森の恵みをできるだけそのままに子どもたちのところに届けたいと思いました。

子供たちは冬でも外で泥だらけになって次の瞬間にはシャワーを浴びて部屋で絵本を読む遊びの達人です。  
新園舎では、達人の遊びを邪魔せず、畑の広がる北側に建物を全面的に開放し、室内と室外の境目なく自由に走りまわられるようにしました。

子どもたちは数人がグループになって島を作って遊びます。屋根を支える2本の柱が島を作り、そして子どもたちは柱のまわりをぐるぐる回ります。  
併設された学童室とは自由に行き来ができ、早上がりの小学生が居残りの園児たちと一緒に遊びます。

完成した新園舎で駆け回る子どもたちの笑顔、杉の床の上を愛おしくゴロゴロしている姿を見るにつけて、川上から川下まで協力して森の恵みを子どもたちに届けることが我々の使命であることを強く感じています。



名称 : わらしべの里共同保育所  
 事業主 : 社会福祉法人わらしべ会  
 場所 : 埼玉県熊谷市弁材201~205  
 用途 : 保育所・学童・子育て支援センター  
 規模 : 地下1階、地上2階  
 構造 : 木造軸組工法(準耐火建築物)  
 敷地面積 : 1,727.92㎡ (521.65坪)  
 建築面積 : 723.34㎡ (218.37坪)  
 延床面積 : 789.17㎡ (238.24坪)  
 2階 45.54㎡ (13.75坪)  
 1階 686.70㎡ (207.31坪)  
 地階 56.93㎡ (17.18坪)



左上：子どもたちと父兄も同伴で秩父の森に行きました。この森の恵みを子どもたちのもとに届けるのが私達の使命でした。  
 左下：製材所にも一緒にに行きました。森の恵みの丸太を製材所で柱や梁に加工する様子を子どもたちと見学しました。  
 子どもたちに森の恵みを感じてもらおうことが、このプロジェクトでは何より大切でした。  
 下：現地で建物の大きさを職員の方と一緒に測るワークショップをしました。地面にロープを張ってその上を子どもたちが走り回って建物の大きさを確認しました。



上と右：完成した新園舎で杉の床を愛おしむ子どもたち。柱のまわりをまわって遊ぶ子どもたち  
 下：子供支援センターが併設されています。

上：泥だらけになって園庭で遊ぶ子どもたちは遊びの達人です。  
 左：学童室も併設スキップフロアの下は竜巻発生時の避難用地下室です。  
 右下：お昼ごはんの楽しいひと時。半分戸外の大屋根の下で、みんなといっしょに。